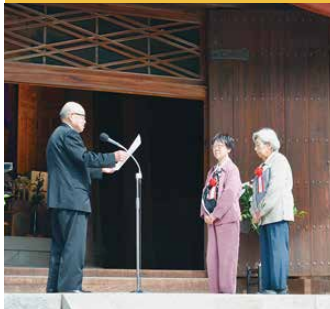
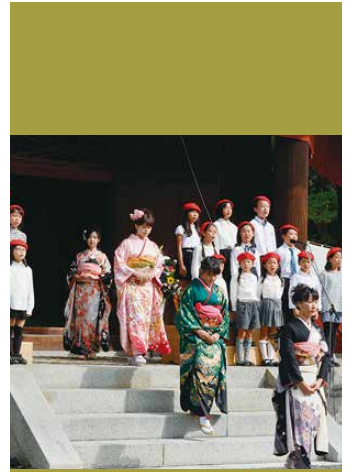
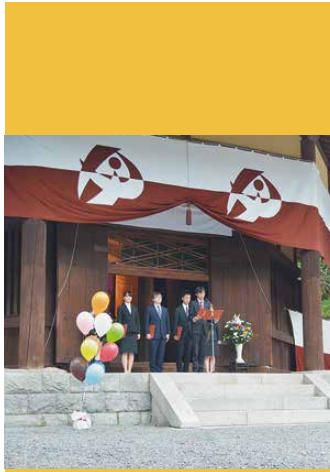


令和元年度 第73回

芭蕉祭





芭蕉翁記念館・蓑虫庵は
10月12日(土) 入館無料!

芭蕉祭 式典

〇とき：10月12日(土)

◆墓前式典

午前8時30分～ 愛染院 故郷塚

◆献花・献菓

〇午前9時10分～

伊賀鉄道忍者市(上野市) 駅前

芭蕉翁銅像

〇午前9時20分～ 旧市役所庁舎前

芭蕉翁文字碑「自然」

◆芭蕉祭式典

午前9時25分～11時30分

上野公園俳聖殿前

*俳聖殿内の芭蕉翁座像への献茶・

献花・献菓、献詠俳句・連句の披

講・奉納

*献詠俳句特選者、献詠連句特選者、

三重県知事賞、芭蕉祭ポスター最

優秀賞、絵手紙最優秀賞の受賞者

への表彰

*芭蕉祭フェスティバルバンドの演

奏に合わせて、芭蕉祭市民合唱団

芭蕉祭子ども合唱団による「芭蕉

さん」、「芭蕉翁讃歌」、「芭蕉」、

「奥の細道」の合唱

◆全国俳句大会

当季雑詠 1人3句以内

(未発表句に限ります。)

〇とき：10月12日(土)

午後1時30分～4時

投句締め切り

俳聖殿前式典会場…

午前11時45分

ハイトピア伊賀5階…

午後0時45分

〇ところ…ハイトピア伊賀

5階多目的大研修室

◆芭蕉祭ポスター原画展

〇とき：9月29日(日)～10月12日(土)

〇ところ…ハイトピア伊賀

5階ギャラリー

〇とき：10月16日(水)～31日(木)

〇ところ…本庁舎

1階市民スペース

◆芭蕉祭短冊展

(児童・生徒の部特選句)

〇とき：10月16日(水)～31日(木)

〇ところ…本庁舎

1階市民スペース

◆絵手紙展「拝啓 芭蕉さん」

〇とき：10月12日(土)～31日(木)

〇ところ…銀座の館ギャラリー

芭蕉祭は、芭蕉翁の業績を称え、遺徳を偲んで、芭蕉翁の命日の10月12日に行います。芭蕉祭にあわせ、芭蕉月間にはセレモニーをはじめ記念講演会や全国俳句大会のほか、各種団体による協賛事業が催され、俳句愛好家や芭蕉翁を慕う人たちが参加し文化薫る歴史のまちの風物詩となっています。

◆芭蕉祭俳句列車(伊賀鉄道)

芭蕉祭ポスター原画の入賞作品36点と、芭蕉翁献詠俳句児童生徒の部の特選句33句を車内に展示して運行します。

※ポスター原画は印刷したものを展示します。

※列車の運行ダイヤは伊賀鉄道にお問い合わせください。

芭蕉祭記念講演会 ―歌枕俳枕講座―

○とき…10月11日(金)午後1時30分～
(受付…午後1時～)

○ところ…ハイトピア伊賀
5階多目的大研修室

講師 関西大学名誉教授
藤田 真一さん

演題 「さすらい草の庵
―芭蕉と鴨長明―」



協賛行事

◆切手展

○とき…10月11日(金)

午前10時～午後3時

12日(土)午前10時～午後4時

○ところ…ハイトピア伊賀
5階ギャラリー

◆瓢箪会(松涛会)茶会

○とき…10月12日(土)

午前9時30分～午後3時

○ところ…芭蕉翁記念館 茶室

◆俳画展

○とき…10月12日(土)

午前10時～午後4時

○ところ…ハイトピア伊賀
5階ギャラリー



◆野点茶会

○とき…10月12日(土)

午前10時～午後3時30分

○ところ…芭蕉翁記念館前広場

◆郵便局臨時出張所 (切手:はがきの販売)

○とき…10月12日(土)

午前11時～午後3時

○ところ…

上野公園レストハウス付近

◆骨董市

○とき…10月12日(土)・10月13日(日)

午前9時～午後4時

○ところ…芭蕉翁記念館前広場

◆くみひも販売

○とき…10月12日(土)

午前10時～午後4時

○ところ…

上野公園レストハウス付近



◆芭蕉ふるさと連句大会

○とき…10月12日(土)

午後1時～5時

○ところ…ハイトピア伊賀
5階学習室2
あおやまうたのいえ

◆青山讃頌舎

「絵で観る俳句―穂月明作品で
たどる俳句の歴史―」

○とき…12月23日(月)まで

午前10時～午後5時

土・日曜日、祝日開館

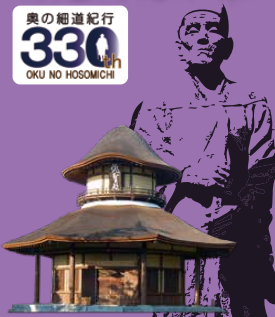
○ところ…青山讃頌舎
(別府718番地の5)

※平日は予約対応しています。詳しくは青山讃頌舎にお問い合わせください。

青山讃頌舎

☎090-0660-6432

奥の細道330年 記念関連事業



今年は芭蕉翁の紀行文「奥の細道」の旅から330年の節目の年です。市では、毎年開催している芭蕉祭に合わせ、記念事業を開催します。

奥の細道紀行330年記念 キャラバン隊セレモニー

4月に芭蕉翁が手がけた最初の句集「貝おほひ」を奉納した上野天神宮で、記念事業のシンボルである炎「俳聖の火」が採火され、ゆかりの地を巡っています。その「俳聖の火」が、芭蕉祭に登場し、奥の細道紀行330年PRキャラバン隊である岐阜県大垣市マスコットキャラクターの「おがっさい」たちと分火式などのセレモニーを行います。

○とき…10月12日(土) 芭蕉祭式典

○ところ…上野公園俳聖殿前

宮本竹逯展

○とき…10月4日(金)～6日(日)

午前9時～午後5時

○ところ…ハイトピア伊賀 5階
多目的大研修室、ギャラリーなど

古川タクさんと楽しむ 連句アニメーション「冬の日」

○とき…10月6日(日) 午後1時～4時
○ところ…ハイトピア伊賀
5階多目的大研修室

芭蕉翁記念館特別展 「奥の細道」

「奥の細道」の旅から330年を記念して、伊賀に伝わる奥の細道関連の資料を展示しています。ふるさとならではの奥の細道展をお楽しみください。

○とき…12月27日(金)まで
午前8時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

○ところ…芭蕉翁記念館

芭蕉翁記念館特別展 ギャラリーートーク

○とき…10月19日(土)、11月10日(日)、
12月7日(出)

いずれも午後1時30分～2時

※芭蕉翁記念館展示室で開催します。
(入館料が必要です。)



元禄2(1689)年、深川(東京都江東区)を出立した芭蕉翁は、東北・北陸を巡り、大垣(岐阜県大垣市)で約5カ月にわたる2,400kmの旅を終えました。この旅をまとめたものが紀行文「奥の細道」です。

「奥の細道」は、旅を終えた数年後、実際の出来事に創作を織り交ぜて記されました。

作品には、旅を終えてから詠んだ句や事実と異なる話が登場します。

例えば、旅立ちの日、見送りの人々と別れる千住で、

行春や 鳥啼魚の 目は涙

の句を詠んだと記されていますが、実際に詠んだ句は

鮎の子のしら魚送る 別哉

でした。なぜ、実際に詠んだ句ではなく、「行春や」の句としたのでしょうか。それは、作品の最後に登場する句に関係があります。巻末の句は、旅の終着点である大垣で、現地の人々と別れる際に実際に詠んだ、

蛤のふたみにわかれ 行秋ぞ

という句です。

芭蕉翁は、旅の終わりの場面

で「行秋ぞ」と詠んだため、旅立ちの場面では、「行春や」を入れた句を詠んだことにしたほうがよいと考え、旅の後で作品のために新しく詠んだとされています。

次に、「卅日、日光山の禁に泊る(以下略)」の場面は、事実とは異なります。

「卅日」とは、旧暦3月の末日、すなわち30日を表します。しかし、旅をした元禄2年の3月は、29日までしかなかったことが確認されています。

作品に架空の30日の話が登場するのは、話の流れを変える必要があったからではないかと考えられています。

本来の「卅日」である前日の29日には、和歌の名所として知られる室の八島を訪れ、その土地の祭神について触れています。翌4月1日は、日光山を参詣し、徳川家康を祭神として祀る東照宮を紹介しています。どちらも祭神にまつわる内容であるために日光山の禁に泊まったという架空の1日を挟むことで、同じような話を連続させない工夫をしています。

芭蕉翁は全体のバランスや話の流れなどを考慮して、実際の旅に創作を織り交ぜ、紀行文「奥の細道」を完成させました。

【問い合わせ】文化交流課 ☎ 22-9621 FAX 22-9619 ✉ bunka@city.iga.lg.jp

(公財)芭蕉翁顕彰会 ☎ 21-4081 FAX 51-6796